

高等学校 生徒指導 研修ガイドブック



神奈川県立総合教育センター

平成25年5月(改訂版)

ま え が き

学校における生徒指導上の問題は、日常の生徒指導上の問題はもとより、不登校やいじめ、暴力行為など極めて深刻で多岐にわたるものになっています。社会全体が急速に変化していく中で様々な課題が生じ、生徒の意識と行動にも大きな影響を与えています。このような状況において、生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、生徒の人格形成を図る上で大きな役割を担っています。

生徒指導とは、問題行動等が発生した時の対応だけでなく、それ以前の予防的指導や授業、特別活動、部活動等、学校生活全体を通して、生徒を成長させるための開発的指導も含まれます。

また、かながわの支援教育の考え方に基づき問題行動等への対応と教育相談を別々のものと考えず、一つのものとして考えることにより生徒指導がさらに効果的なものになります。

これからの生徒指導は、一部の担当者だけに任せるのではなく、学校全体で教員一人ひとりが生徒指導についての知識やスキルを身に付け、資質・指導力を向上させていくことが求められます。

大量採用の時代を迎え、各学校では若い教員が増えてきています。こうした中、総合教育センターにおける初任者研修の実施とともに、各学校の現状や目指す生徒像に即した校内研修の実施がいわば車の両輪となって計画的・組織的な人材育成を進めていくことが必要です。そこで、釜利谷高校、橋本高校、藤沢工科高校の3校に生徒指導研修プログラム開発モデル校として、校内研修の実践をしていただきました。

校内研修の活性化のために、本書をご活用いただき、学校全体で組織として、生徒指導力を高め、生徒の健全な成長、社会的自立、自己実現につながることを期待します。

平成25年3月

神奈川県立総合教育センター所長
下山田 伸一郎

◇本冊子の活用のしかた

◇第1章 研修のための基礎編

I	生徒指導の重要性	2
II	自己指導能力とは	3
III	生徒指導の課題	6
IV	「かながわの支援教育」	7
V	生徒指導の体制	9
VI	生徒指導に係る研修の必要性	10

◇第2章 総合教育センターにおける研修

総 論

	神奈川の支援教育を基盤とした生徒指導の在り方	14
I	教師と生徒の信頼関係の確立	
	授業における生徒との信頼関係づくりの工夫	16
	保護者との連携と対応	20
	ホームルーム経営の基礎	24
II	生徒相互の好ましい人間関係の育成	
	生徒同士の間関係づくり	28
III	生徒理解の深化	
	生徒指導グループとの連携	32
	生徒理解のための対話	36
	チーム支援とケース会議	40
IV	主体的な判断、行動により自己を生かす生徒の育成	
	生徒理解とチームアプローチ	44

◇第3章 校内研修実践

I	釜利谷高校の取組み	50
II	橋本高校の取組み	60
III	藤沢工科高校の取組み	70

◇第4章 資料編

本冊子の活用のしかた

生徒指導は学校の教育活動全体を通じ、管理職のリーダーシップの下、全教職員がそれぞれの役割を担い、学校全体で組織的・計画的に行うことが大切です。そのためには、校内研修等の充実を図り、生徒指導に関する資料などを確認することが大切です。

生徒指導に関する研修が効果的になるよう、本冊子を活用してください。

主な活用のしかた

たとえば、こんな研修で活用できます。

○今日の生徒指導に対する考え方や指導の在り方の変化を捉え、教育課題に沿った指導をするための研修

○不登校やいじめ、体罰など、今日の学校の様々な課題に対応して、効果的な生徒指導をするための研修

○管理職から若手教員まで、役割ごとに捉えておきたい生徒指導について理解を深めるための研修

(例)

若手教員・・・生徒指導に関する基本的な理論や知識を習得
生徒の実態に沿った、実践的指導法の把握

中堅教員、ベテラン教員

・・・人材育成のための総括

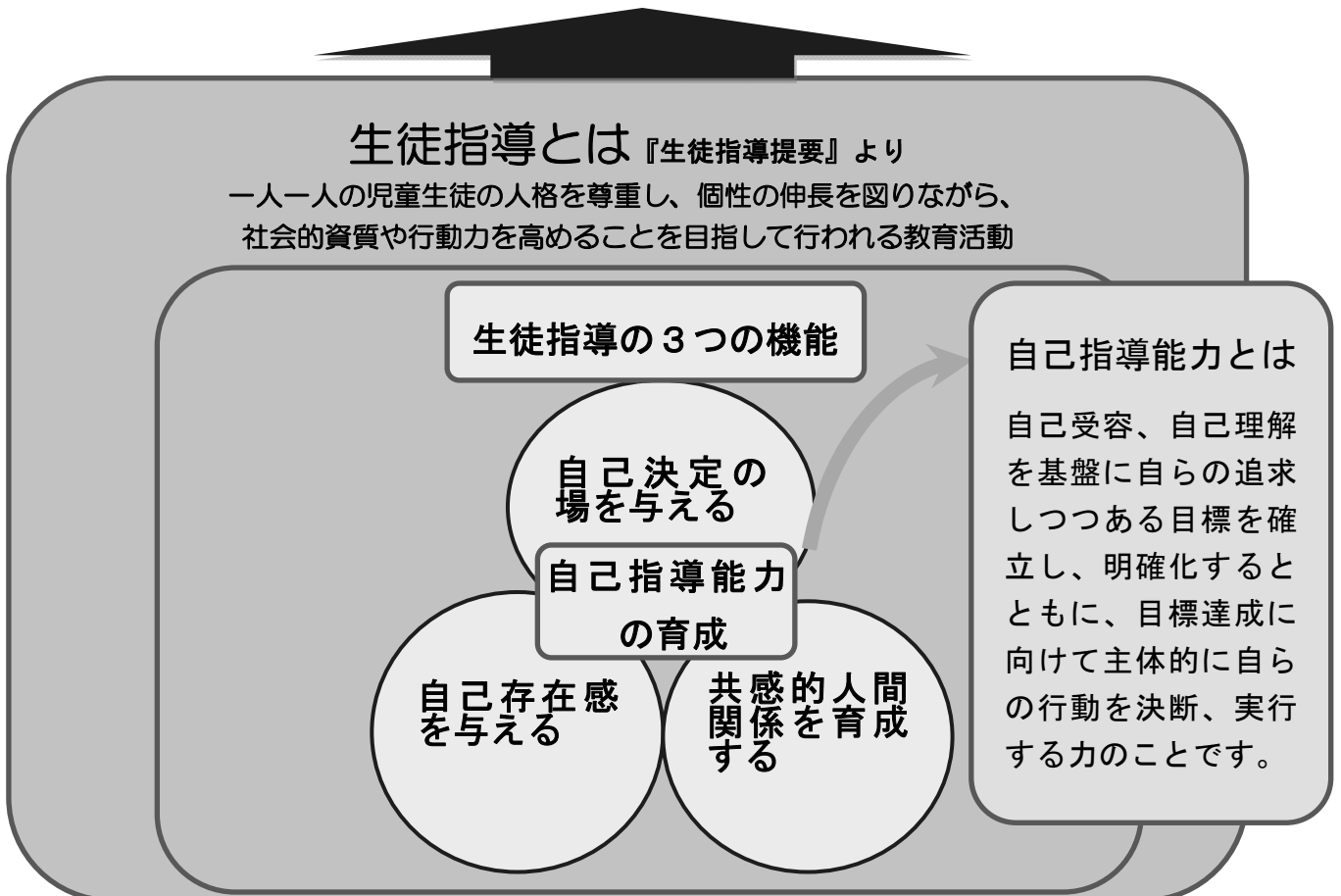
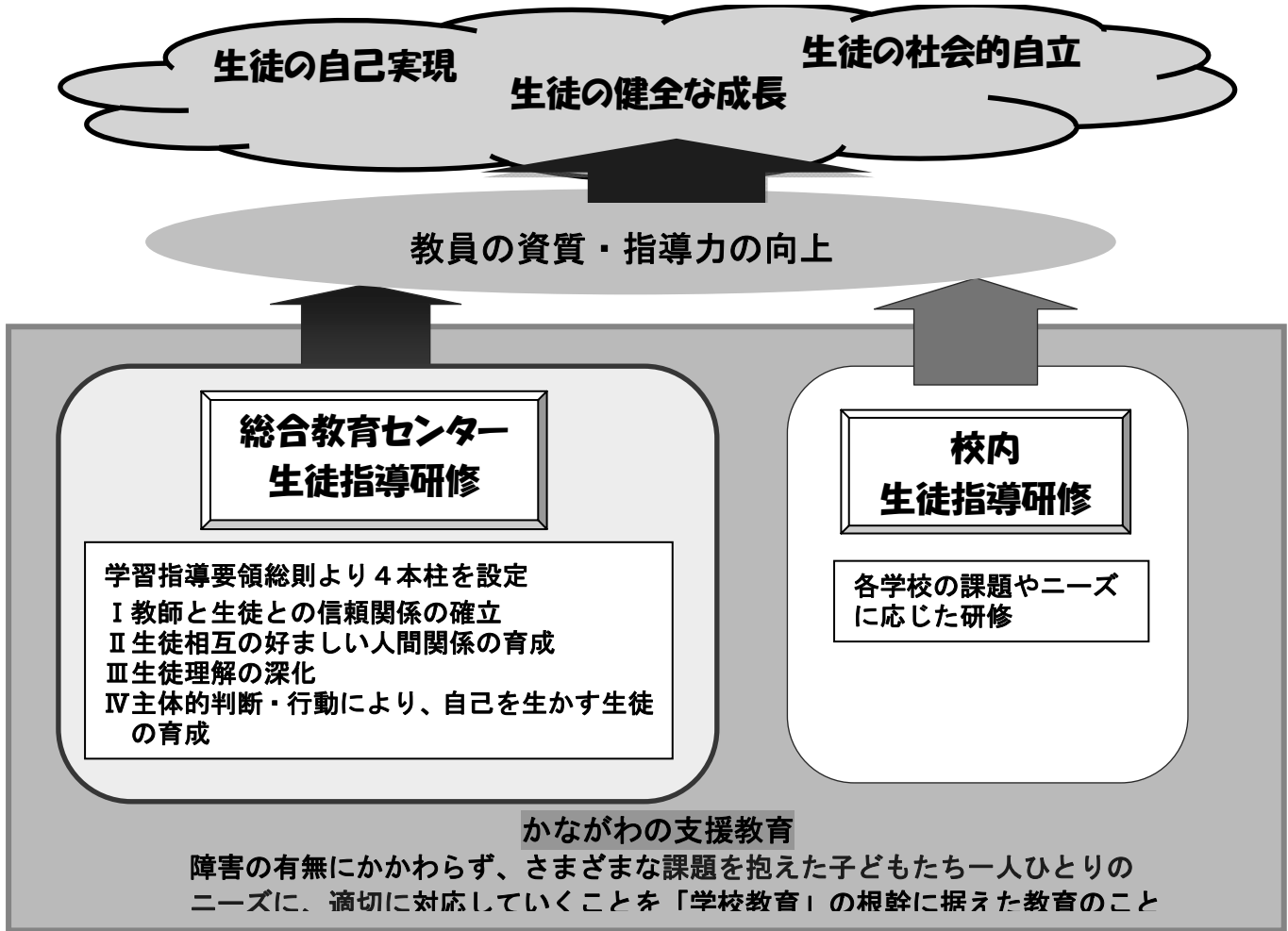
校内体制の編成や企画

生徒指導に関する最新情報の収集、学校の実態に沿った活用

管理職・・・全教育活動を通じた包括的・組織的な生徒指導体制構築の参考

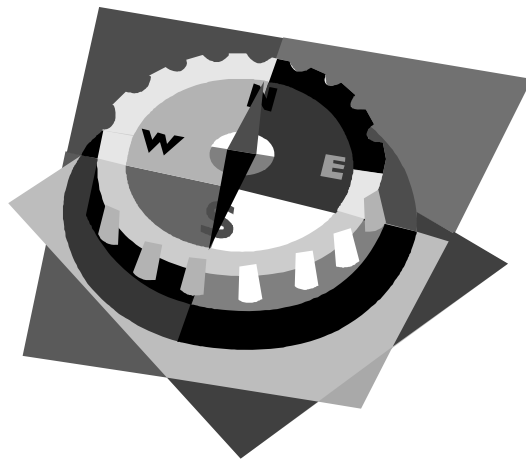
* かながわの生徒指導と研修の柱について、次のような図にして整理しました。

かながわの生徒指導(高等学校)と研修の柱



第1章

研修のための基礎編



そもそも生徒指導とは何を指すものなのでしょうか？

生徒指導というと、とかく問題行動への対応あるいは教育相談だけが強調されがちです。確かに、現実にはいじめ、不登校、暴力行為などの問題行動等は依然として厳しい状況にあります。それらへの適切な対応は大切なことであり、経験と実績の積み重ねから身に付いた力が必要なのはもちろんです。併せて生徒指導に関する知識や理論の裏付け、有効な研修の在り方を知っておくことも重要なことです。

この章では、教員として知っておくべき生徒指導に関する基本的な理論や知識、研修の必要性についてまとめました。

I 生徒指導の重要性



生徒指導とは・・・

生徒指導とは、「社会の中で自分らしく生きることができる大人に児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけ」の総称のことです。

- ◆児童生徒が自発的かつ主体的に自己を成長させていく過程を支援すること。
- ◆集団や社会の一員として自己実現を図っていく大人へと育つよう促すこと。

たとえば・・・

生徒全員がマナーとルールを守って、学校生活を送る指導と言っても、「自分さえ良ければよい」、「周りに迷惑をかけていない」など、自分勝手な振る舞いをする生徒へどのように指導したらよいか、困っています・・・



第2章「ホームルーム経営の工夫」がヒントになります！
第3章「釜利谷高校の取組み」がヒントになります！

何度指導しても遅刻が減らない、授業中騒いでしまう生徒への指導はどうしたらよいのか・・・



第2章「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」や「生徒理解のための対話」がヒントになります！



生徒指導のねらいとは・・・



一人ひとりの生徒に、自己実現のための自己指導能力を育成することです。

これは自分勝手に行動することではなく、他人のためにもなる行動をとるような態度や能力を育成することです。

それらの育成をするためには「経験の積み重ね」を生徒にさせることが大切であり、あくまでも教師の指導がなければなりません。

授業の場面では、教えて理解させることはもとより、生徒が自ら体験し、実践させ、気付かせる機会が必要です。例えば、自発的な学習のための「朝の読書」で様々な世界を間接的に体験することは、自己を意識し始める時期の中・高生にはとても有意義なものですし、学習活動をスタートさせる朝の生活習慣として貴重な時間となっているようです。「子どもに落ち着きや集中力がでてきた」、「落ち着いて席に着けるようになった」などの、様々な効果が報告されています。

II 自己指導能力とは



「自己指導能力の育成」には、3つの機能があります。

- ・ 自己存在感を与える機能
- ・ 共感的人間関係を育成する機能
- ・ 自己選択・決定の場を与える機能

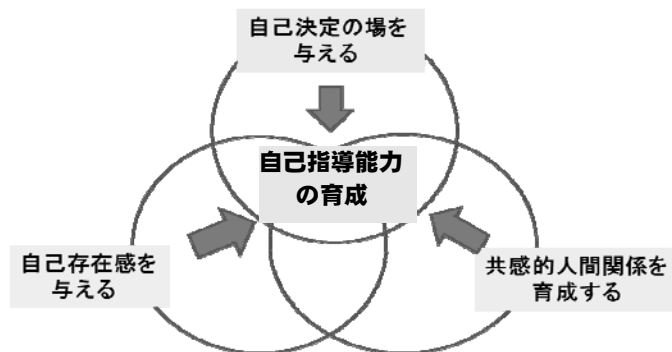
自己選択・決定の場を与えるために・・・

(授業で)

- ・ 一人で考える時間を十分に与える。
- ・ 自分の考えを、みんなの前ではっきり表現させる。

(授業以外で)

- ・ 話し合いで学級に必要な係を決めさせる。
- ・ 清掃の進め方や方法を自分たちで決めさせる。
- ・ 修学旅行の班別行動、目的地や決まりを自分たちで決め、行動に責任を持たせる。 など



自己存在感を与えるために・・・

(授業で)

- ・ どの場面で生徒を生かせるか考えておく。
- ・ テストや提出物に生徒に応じたコメントを書いて返す。

(授業以外で)

- ・ 欠席していた生徒に必ず声をかける。
- ・ 個々の生徒に活躍の場を与え、支援し、適切な評価をする。
- ・ どんな発言でもからかったり無視したりしない。 など

共感的人間関係を育成するために・・・

- ・ 放課後や校外活動の時など、一緒になって活動しながら指導する。
- ・ 生徒同士の間人間関係を的確に把握する。
- ・ 一人ひとりを受け入れて、ほめる。
- ・ 自らもけじめのある生活を生徒に示す。
- ・ つねに、生徒の人間性を認めていく。 など

生徒の自己指導能力を育成するためには、学校を中心に様々な形のコミュニケーションを通じた人間関係づくりが重要です。このことは生徒指導を推進する上で大変効果的です。



【参考：生徒と教員のコミュニケーションについて】

- 休み時間などにコミュニケーションタイムと称して校内をめぐり、生徒とのコミュニケーションを図りましょう。
- ホームルーム日誌に日々思うことを書かせ、コメントを記入し、その内容をもとに積極的な会話を図りましょう。
- 生徒の些細な行動や変化を見逃さず、積極的に声をかけ、褒め、励ましのことばをかけることで、自己肯定感を持たせる（「できて当然」、「わかって当然」ではなく、日常の中で「ほめて自己存在感を感じさせる」、「役割と遂行の機会を与え、達成感を実感させる」、「心配されていることに気づかせる」等）指導を行いましょ。

授業での指導の在り方は・・・

教員ができること・・・

- ・生徒が学習課題を自分のものとして明確に捉えられるよう配慮しましょう。
- ・生徒が活動できる場面や、自己選択・決定する場面を多く取り入れましょう。
- ・体験的な学習を取り入れ、生徒の多様な考え方を引き出すような発問の工夫をしましょう。
- ・生徒同士の学び合いの工夫をしましょう。
- ・生徒一人ひとりの能力に合った学び方ができるようにし、生徒にとって学びがいのある学習環境を整えましょう。
- ・生徒の学習に対する思いや願いを受け止めながら授業を組み立てましょう。
- ・生徒が「分からない」と言える雰囲気をつくり、補習などでも学習を補えるようにしましょう。



【参考：「学校ができる 教員ができる 不登校の未然防止」

（神奈川県立総合教育センター 平成 24 年 4 月）より

忘れ物への対応

- 忘れ物をした生徒のために、教科書や筆記用具を教師が準備しておく。
「どうして忘れたの」と失敗を責めるのではなく、失敗を繰り返さないように支援する。

授業プリントの工夫

- 集団で授業を受けることが難しい生徒には、別室で個別に学習指導（プリント学習等）をする。また、学力の高い生徒に対しては、レベルの高いプリントも用意する。個々の学力に応えるために、習熟度別プリントを用意する。

使用する教科書について

- 最初から内容が易しい教科書では、生徒の学習意欲が下がることがあるので、手応えのある教科書を使って、かみ砕きながら丁寧に教えるようにする。



学校行事での指導の在り方は・・・

例えば文化祭では・・・

担任はクラスの生徒に、話し合いや活動の中で無責任な発言や、批判的発言をしないように指導するとともに、リーダーや各係の責任者には「仕事を任せる」ことを告げ、失敗を恐れずに行動できるように支援、配慮しましょう。



生徒指導をキャリア教育の視点で捉えよう



生徒指導とキャリア教育の関係は・・・

生徒指導とキャリア教育は、ともに人格のより良い発達を支援するという目的を持ち、キャリア教育の具体的な取組みは、生徒指導としても大きな役割を果たすなど、密接な関係にあります。

キャリア教育とは、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる教育を言います。

課題のひとつとして、コミュニケーション能力等職業人としての基本的能力の低下があげられます。

キャリア教育で育成すべき力・基礎的・汎用的能力

- * 人間関係形成・社会形成能力
- * 自己理解・自己管理能力
- * 課題対応能力
- * キャリアプランニング能力

○高等学校では、学校から社会・職業への移行を見据え、教育活動全般においてキャリア教育を推進することが求められています。

○生徒は目的を見失ったときに、無力感や孤独感から反社会的行動などをしてしまうこともあります。様々な場面で自己存在感を高め、目標に向かって努力する意欲や態度を育てることが重要です。



III 生徒指導の課題



「生徒指導」というと、問題解決的な取組みに偏りがちですが、「生徒の健全な成長・発達を促す」ことが問題行動等の予防と、活力ある学校づくりにつながります。

生徒指導って、すべての教育の場にどのように活用させればいいのか？



第2章「授業における生徒との信頼関係づくりの工夫」

「ホームルーム経営の基礎」

第3章「橋本高校の取組み」

がヒントになります！



生徒一人ひとりの能力を見い出して、それを引き出すための指導はどのようにすればいいのか？



第2章「生徒理解のための対話」

「生徒理解とチームアプローチ」 がヒントになります！



保護者との関係はどうすればいいのか？
地域の教育的、社会的資質を活用した支援体制づくりは？
学校関係機関とのネットワークづくりの方法は？



第2章「保護者との連携と対応」がヒントになります！

第4章で各機関の連絡先を参照してください！

問題行動を頻繁に繰り返し、授業や学校生活にも落ち着いた取組みが見られません。どうしたらいいのか・・・



第2章「生徒指導グループとの連携」

「チーム支援とケース会議」 がヒントになります！



IV 「かながわの支援教育」

「かながわの支援教育」とは..

「かながわの支援教育」とは、障害の有無にかかわらず、さまざまな課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに、適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育のことです。各学校に在籍するすべての子どもたちが、それぞれの必要性に応じて適切な支援を受けられるような学校づくりを進めていくことが基本となります。

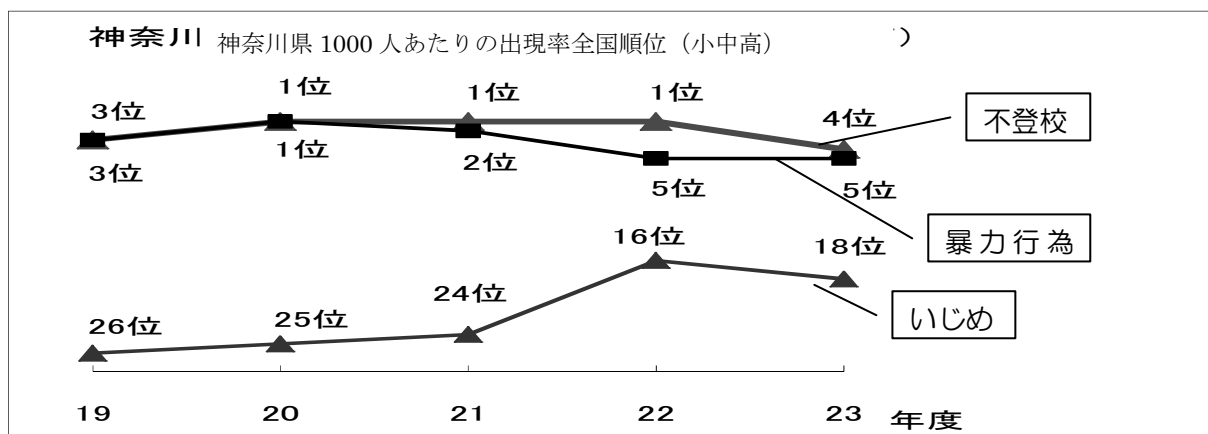
神奈川県支援教育充実のための具体的取組

- ・教育相談コーディネーターの養成と配置
- ・チームアプローチ（園内・校内体制）
- ・ケース会議
- ・個別の支援計画
- ・巡回相談 市町村の相談支援チーム
特別支援学校の地域センター機能

「さまざまな課題を抱えた子どもたち」とは、発達障害のある子どもたち、心因性の背景を持つ不登校、集団への不適応、対人関係の取りにくさなど、自らの力で解決することが困難な課題すなわち「教育的ニーズ」を抱え、周囲からの支援が必要となる子どもたちです。神奈川県ではそのような子どもたちの教育的ニーズに応えるために、左のような具体的な取組みを行っています。

合い言葉は チームで対応 支援をつなぐ

神奈川県の「いじめ防止」や「不登校防止」の取組みについて



（「平成 23 年度神奈川県児童・生徒の問題行動等調査」より一部抜粋）

神奈川県では、「問題行動等はどの学校にもどの子どもにも起こり得る問題」として捉え、「学校教育全体・社会全体での取組み」等により、新たなケースの未然防止を目指しています。

〈例〉

- 「いじめ問題に係る点検」調査の実施
文部科学省通知のチェックリストを活用して、市町村教育委員会や各学校が自己の取組みを点検するための調査を県独自に毎年実施しています。
- 「神奈川県児童・生徒の問題行動等に関する短期調査」の実施
いじめや暴力行為、不登校の状況を教育委員会が把握することを通じて、即時的な対応・支援の充実につなげることをねらいとして実施しています。

かながわの支援教育

生徒の表面的な問題行動の部分のみを指導するのではなく、その背景や原因を把握、理解し、それぞれに合った適切な支援を行いながら改善に向けて指導するという考え方です。もちろん、単なる状況把握や同情に終わることなく時には毅然とした指導も必要です。

いじめ
暴力行為
不登校
非行など

表面的な
行動

実態把握
子ども理解

背景や原因

- ・対人関係
- ・学習状況
- ・家庭環境
- ・生育歴
- ・発達障害
など

抱えているニーズ

教育的ニーズ

- ・学習の遅れ
- ・集団不適應
- ・心理的不安
など

医療的ニーズ

- 福祉的ニーズ
- 経済的ニーズ
など

信頼関係
理解につながる指導

専門的な支援

適切な支援
チーム支援

学 校

- ・校内委員会
- ・生徒指導グループ
- ・個別の支援計画

連携

医療、福祉

労働、司法

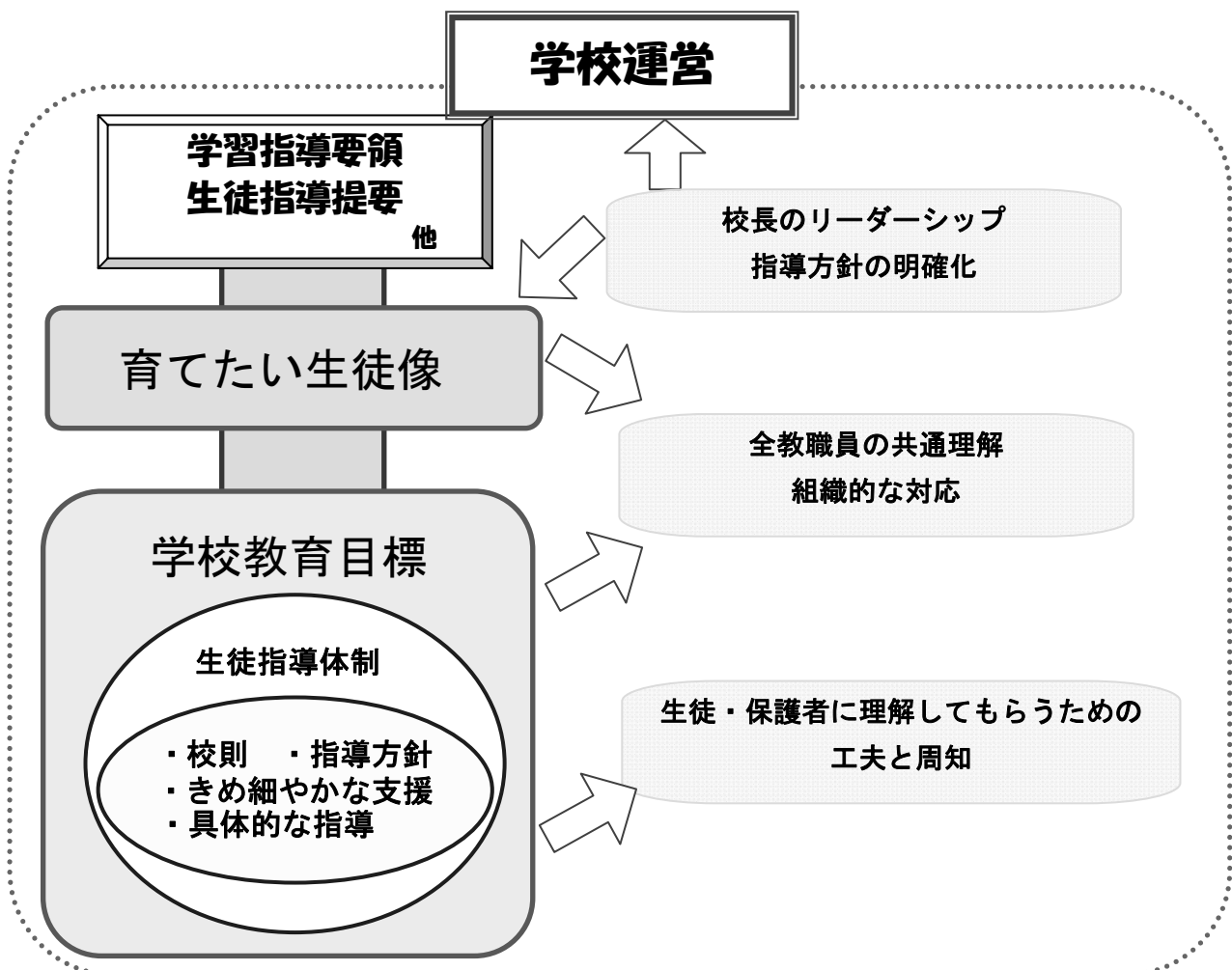
「かながわの支援教育」

障害の有無にかかわらず、さまざまな課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育のことです。

V 生徒指導の体制



生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たします。家庭や地域の意向や評価の把握、関係機関との協働体制も含めて、校内の生徒指導体制の確立が求められています。常により良い体制を築いていくための検証や見直しも必要です。



教員ができること・・・

- 生徒指導体制には、校則、指導方針、きめ細やかな支援や指導等、具体的な仕組みや機能を含みます。
- 体制を確立するには、生徒の実態に沿った生徒指導の必要性、全教職員の共通理解、クラスや学年、学校経営の一貫性を図ることが大切です。



VI 生徒指導に係る研修の必要性



問題行動等への対応にとどまらず、授業や学校生活の各場面に
応じた生徒指導が実践できるよう、必要な力量を効果的に
習得するための教員研修を進めましょう。

生徒指導に関して教職員に求められる力量とは

○生徒指導を進めるための基盤能力とは・・・

生徒一人ひとりと信頼関係を構築する能力を持つことが必要です。一人ひとり、あるいは生徒の集団の状態や心理を理解する能力が求められます。

○教員に求められる基本的な力とは・・・

日々の指導ポイントとして、生徒の基本的な生活習慣の確立と安全に関わる点があげられます。問題行動の早期発見や早期対応ができるのはホームルーム担任や教科担任であり、問題を重度化・長期化させない効果的な指導が求められます。

○基本的な力を踏まえて中堅教員に求められる力とは・・・

生徒指導に係る最新の情報を収集し、組織の中核として他の教員に対し支援的な関わりを持つことが求められます。他の教員の相談相手になるための個別指導の基本を理解することが大切です。

(「生徒指導に関する教員研修の在り方について(報告書)」文部科学省平成23年6月)より

なぜ研修が必要なの？—神奈川県教員年齢構成の実態より—

○若手教員とベテラン教員をつなぐ中間層が少なく、ベテラン教員の持つ授業技術等が継承されにくい。

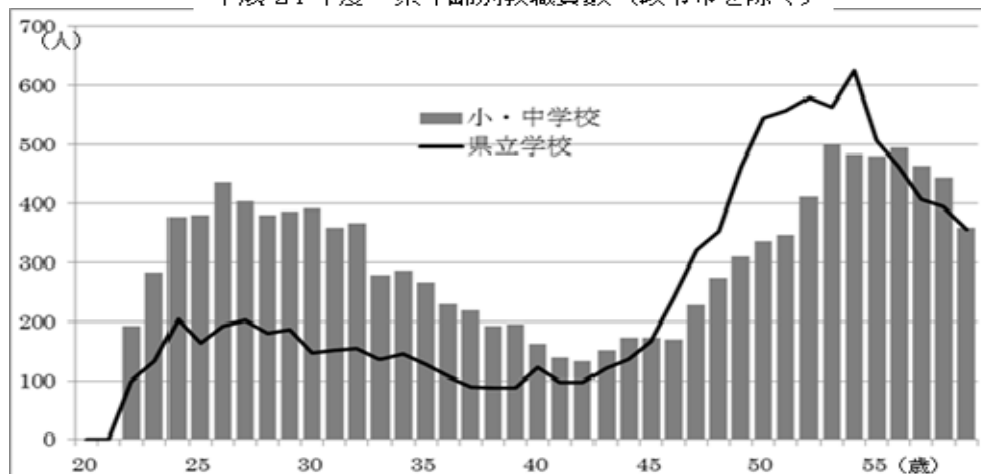
→教育力の継承、若手育成を意識した研修体系の構築が必要です。

○平成25年度に10年を経た教員が小・中・高・特別支援を合わせて500人を超え、今後1000人規模の研修が見込まれる。

→効率的、効果的な研修を行う必要性があります。



平成24年度 県年齢別教職員数(政令市を除く)



(神奈川県ホームページ「平成24年 人事に関する統計調査」を基に作成)

研修にあたっては、次の課題が考えられます。

(例)

- 若手教員育成の意識をもった中堅・ベテラン教員の育成
- キャリア教育と生徒指導をつなげる研修への移行
- より主体的・実践的に行う研修の実施

研修の進め方

効果的な研修を進めるためのポイントを押さえましょう。

- 研修を計画しましょう
 - ・研修の総時間、年間スケジュール
 - ・問題解決的な研修と、発達促進的な研修のバランス
- 研修会を運営するには・・・
 - ・学校を取り巻く現状の把握、学校のニーズ、参加意欲を高める工夫
- 研修会を組み立てましょう
 - ・生徒指導体制の共通理解のための研修
 - ・生徒理解のための研修
 - ・校種間連携のための研修
 - ・生徒指導の充実につなげる研修
- 研修効果を評価しましょう
 - ・点検
 - ・生徒や保護者、学校評議員による評価



効果的な研修のためには・・・

校内の連携や情報の共有、緊密な協力体制が必要です。そのためにも教職員間の日ごろの良好な人間関係や教員間のコミュニケーションが重要となります。これは、全教職員の共通理解に基づく協力体制を整えるためにも、日ごろから教員同士が積極的にコミュニケーションを図り、雰囲気の良い教職員集団を築くことも、生徒にとって、生徒同士または生徒と教員のコミュニケーションと同様に、重要なことです。

生徒指導とは本来、生徒指導担当グループの教員だけが行うのではなく、教科指導と並び、学校教育の大切な指導の一つとして、全教職員で行うという認識をあらためて持つことが必要です。このことを踏まえて、全教職員による協力体制、共通認識は欠かすことのできない重要な要素です。そして、グループ会議、学年会議、職員会議などで具体的な討議・議論を行うことで共通理解を図ることも必要となります。諸会議のみならず、職員室内での日常的なコミュニケーションなど、様々な機会において生徒の情報を共有し、学校全体として生徒理解と指導・支援体制の構築に努めることが重要です。

(「生徒指導研究集録」神奈川県教育委員会 平成 23 年度) より

